

## わかたけ学級（特別支援学級） 自立活動学習指導案

日 時 令和5年9月14日（木）5校時  
 児 童 男子14名 女子4名 計18名  
 指導者 千葉昌子 小野寺優 奥寺彩  
 場 所 体育館

1 題材名 みんなでゲームを楽しもう

2 指導について

(1) 児童について

特別支援学級は、知的障がい学級と自閉症・情緒障がい学級合わせて3学級である。在籍児童、通級的に利用している児童については以下のとおりである。

	1年		2年		3年		4年		5年		6年	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
わかたけ1組 (知的)	1		2			1	1	1	1		1	
通級の利用							1					
わかたけ2,3組 (自閉・情緒)				1			2		2	(1)	3 (1)	1 (1)

在籍児童も通級的に利用している児童も、それぞれの課題に合わせてグループや個別に学習や活動しており、今回の単元に参加しない児童もいる。今回参加する児童は太字になっている児童である。

本題材に参加する児童は、人と関わりたいという気持ちはあるものの、関わり方がぎこちなかったり、思い通りに物事が進められなかったりしたときに不適切な言動をしてしまうことが多い。どの子も適切な対応ができないことは共通であるが、個々に抱える課題は多様なため、解決の仕方も多様である。

本題材に参加する児童の実態については、次のとおりである。

知的	A児（男） 1年	みんなと一緒に活動することに積極的であるが、言葉でやり取りすることが難しい。(6 コミュニケーション(2))
	B児（男） 2年	みんなと一緒に活動することに積極的であるが、言葉でやり取りすることが難しい。(2 心理的な安定(2)、6 コミュニケーション(2))
	C児（男） 2年	慣れた環境であれば、たくさん話することができるが、慣れない人や新しい場に行くことと固まってしまう。(2 心理的な安定(2)、6 コミュニケーション(2))
	D児（女） 3年	積極的に人と関わろうとするが、状況が捉えられず的外れな関わり方をしてしまうことがある。(6 コミュニケーション(5))
	E児（女） 4年	積極的に人と関わろうとするが、状況をうまく捉えられずうまく関われないことが多い。(6 コミュニケーション(5))
	F児（男） 4年	人と関わったり、みんなと一緒に活動したりすることが苦手であり、できない動きが多い。(3 人間関係の形成(1)、6 コミュニケーション(2))
	G児（男） 4年 (サービス通級)	積極的に人と関わろうとするが、状況が捉えられず、不適切な言動をしてしまう。興味に移りやすく、独りよがりな言動になることが多い。(3 人間関係の形成(2)、6 コミュニケーション(4))
	H児（男） 5年	人と関わることはできるが、状況が捉えられず、場にそぐわない言動をしてしまう。(3 人間関係の形成(2)、6 コミュニケーション(3))
情緒	I児（男） 6年	みんなと一緒に活動するという意識はあるが、苦手意識が高く、活動に消極的になることがある。(3 人間関係の形成(4)、6 コミュニケーション(4))
	J児（女） 2年	慣れている人であれば言葉でのやり取りができるが、そうでない人との関わりでは言葉がなかなか出てこない。一斉の指示を聞く意識が低い。(3 人間関係の形成(2)、6 コミュニケーション(4))
	K児（男） 4年	人と関わることはできるが、状況が捉えられず、場にそぐわない言動をしてしまう。(3 人間関係の形成(3)、6 コミュニケーション(4))
	L児（男）	自分の思う結果が得られないと泣いたり怒ったりしてしまう。会話の内容や周囲の

4年	状況を読み取ることが難しいため、誤解し、すねることがある。(2 心理的な安定(2)、6 コミュニケーション(5))
M児(男) 5年	自分の思い通りに進めたい気持ちが強く、その通りに進められないと周囲を攻撃してしまう。(3 人間関係の形成(2)、6 コミュニケーション(5))
N児(男) 5年	自分の思い通りに進めたい気持ちが強く、自分の考えを押し付けたり、相手を責めたりする。(3 人間関係の形成(4)、6 コミュニケーション(5))
O児(男) 6年	下級生の世話を積極的に行うが相手を思い通りに動かしたいという思いが強いため、不適切な関わりをしてしまう。周りから見られる状況が苦手である。(3 人間関係の形成(3)、6 コミュニケーション(5))
P児(男) 6年	人と関わろうとするが、会話の内容や周囲の状況を理解することが苦手で、独りよがりな関わり方をする。特定の人への攻撃がある。(3 人間関係の形成(2)、6 コミュニケーション(4))
Q児(男) 6年	自分の基準で判断するため、相手に合わせたコミュニケーションが難しい。(6 コミュニケーション(5))
R児(女) 6年	人と関わりたいという気持ちはあるが、会話の内容や周囲の状況を読み取ることが苦手で、関われなかったり、不適切な関わりをしたりする。(3 人間関係の形成(3)、6 コミュニケーション(4))

また、「特別支援学校学習指導要領解説、自立活動編・第6章自立活動の内容」に照らして、児童18名の実態を整理すると「3 人間関係の形成」「6 コミュニケーション」の項目に共通して当てはまる課題のあることが把握できた。

## (2) 題材について

自立活動では交流学級でも生かせる活動に取り組んでいる。活動に自信や余裕があると、みんなと一緒に活動でき、達成感も感じやすく、活動に対する意欲も高まりやすい。1学期はスポーツテストの練習やドッジビーなどを行った。異学年で取り組むため、高学年は低学年に合わせて説明をしたり、低学年は高学年の助力を得て、できるように練習したりする姿が見られた。1対1では、うまく関わる姿が見られるようになってきたが、グループではまだ困難が多い。

本題材では、2学期後半にある児童会行事「真小オリンピック」に向けて、抵抗なく参加できるような活動を主体とする。そのため、「真小オリンピック」と同じように5・6年生が遊びを企画するグループ、4年生以下がそれを楽しむグループに分けた。5・6年生は相手意識をもってゲームを企画し、下級生に遊び方を教える。4年生以下はソーシャルスキルなどを学びながらみんなで楽しむために必要なスキルを身に付け、5・6年生が企画したゲームを楽しむ。分けて活動する時間をもつことで、5・6年生は協力して同じ目的を達成するためにグループでコミュニケーションができるようにさせたい。また、4年生以下はみんなと活動したいという気持ちを高めグループでのコミュニケーションの土台を固めさせたいと考え、本題材を設定した。

## (3) 指導にあたって

本題材では、他者と関わりながらコミュニケーションをとれるようにすることを目標とする。活動全体を通して、目的意識や相手意識をもたせためあてを自分で決めさせ、活動後に振り返らせる。

オリエンテーションの時間では、ゴールをイメージさせ、それぞれがどのような活動をするのかなどの概要を説明する。そして、活動するグループを作る際には、個々の特性や相性など、十分に配慮して編成する。

5・6年生の活動では、遊びを企画し実行することが中心となる。4年生以下の実態と5・6年生の実行力を合わせ、企画する遊びを5つ程度に絞っておき、その中から選ばせる。4年生以下の様子を考えながら、楽しめるようなルールやポイントなどを工夫させる。4年生以下への説明の仕方は、1回目は教師が教え、2回目に自分たちで工夫しても良いことにする。

4年生以下の活動では、ソーシャルスキルトレーニングや手先や体の動かし方の練習が中心となる。能力の差が大きいため、活動を自分で選べるようにし、達成感と自信をもつことを大事にする。楽しむことで「みんなと一緒にだと楽しい」という思いがもてるようにする。

単元を通して、伝え合う活動に必然性をもたせ、自然にコミュニケーションが取れるようにしていく。

### 3 題材の指導計画（8時間）

	題材名	内容
1時間	オリエンテーション（合同）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の見通しをもつ。</li> <li>・低学年、高学年とも2グループに分かれる。</li> <li>・「みんなでたのしもう」という目標を設定する。</li> </ul>
3時間	<b>【5・6年生】</b> 遊びを考え、楽しんでもらおう <b>【4年生以下】</b> みんなで遊びを楽しもう	<b>【5・6年生】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・低学年が楽しめる遊びを決める。</li> <li>・グループごとに低学年が楽しめるように遊び方を考え、作る。</li> <li>・グループの中で好ましいやり取りができるよう、事前に教えたり、一緒に関わったりする。</li> </ul> <b>【4年生以下】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ソーシャルスキルトレーニングで人のかかわり方の基礎を練習する。</li> <li>・グループの中で好ましいやり取りができたときには、取り上げ、共有する。</li> <li>・手先や体の動かし方を練習する。</li> </ul>
1時間 （本時）	みんなで遊ぼう（合同）	<b>【5・6年生】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・低学年が分かるように遊び方を教えたり、困っているときには助けたりする。</li> </ul> <b>【4年生以下】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高学年の説明に従って遊びを楽しむ。</li> </ul> <b>【全体】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・好ましいやり取りができるよう、事前に声掛けをする。</li> </ul>
2時間	<b>【5・6年生】</b> より楽しい遊びを企画しよう <b>【4年生以下】</b> 技術を磨こう	<b>【5・6年生】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の反省を踏まえて、新しい遊びを決め、楽しめるように計画し、作る。</li> <li>・グループの中で好ましいやり取りができるよう、できていることを共有する。</li> </ul> <b>【4年生以下】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・手先や体の動かし方を練習する。</li> <li>・グループの中で好ましいやり取りができたときには、取り上げ、共有する。</li> </ul>
1時間	みんなで遊ぼう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一回目の遊びの振り返りを生かして楽しむ。</li> </ul>

### 4 本時の学習指導（5／8）

#### （1）目標

- ア **【5・6年生】** 4年生以下が楽しめるように遊びを運営できる。（分かるように説明する、励ます等）
- イ **【4年生以下】** マナーを守って遊ぶことができる。（挨拶や、話の聞き方等）
- ウ **【全員】** 自分のめあてを意識して行動することができる。

#### （2）個別の目標と支援

	児童名	目標	支援
知的	A児（男） 1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話す人に意識を向けて聞くことができる。</li> <li>・挨拶ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話の内容を確認する。</li> <li>・リーダーの真似をさせる。</li> </ul>
	B児（男） 2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話す人に意識を向けて聞くことができる。</li> <li>・分からないときに、意思表示ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話の内容を確認する。</li> <li>・分からないときには尋ねることを教える。</li> </ul>

	C児 (男) 2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話す人に意識を向けて聞くことができる。</li> <li>・集団で活動を楽しむことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意識を話す人に向くように声掛けをしたり内容を確認したりする。</li> </ul>
	D児 (女) 3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話す人に意識を向け聞くことができる。</li> <li>・友達に合わせて活動を楽しむことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話の内容を確認する。</li> <li>・友達との距離感を教えるようにする。</li> </ul>
	E児 (女) 4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話す人に意識を向けて一度で聞くことができる。</li> <li>・友達に声掛けをしながら活動を楽しむことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に、話を聞くと楽しい活動ができることを教える。</li> <li>・声をかけるタイミングを事前に教えたり練習したりする。</li> </ul>
	F児 (男) 4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話す人に意識を向けて聞くようにする。</li> <li>・集団の中で活動を楽しむことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話す人のほうを向いて聞くように声掛けをする。</li> <li>・順番や手順を守るように声掛けをする。</li> </ul>
	G児 (男) 4年 (サービス通級)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話す人に意識を向けて一度で聞くことができる。</li> <li>・友達を気遣って活動を楽しむことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に、話を聞くと楽しい活動ができることを教える。</li> <li>・正しい声掛けの仕方を事前に教えたり練習したりする。</li> </ul>
	H児 (男) 5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指示を一度で聞き、分からないときには確認ができる。</li> <li>・相手に分かるように伝えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に、指示を聞くときには相手の方を見ることを確認する。</li> <li>・事前に説明の仕方や、場にあった声の大きさなどを練習し、紙板書や声掛けなどで意識できるようにする。</li> </ul>
	I児 (男) 6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手に合わせて関わることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に声掛けの仕方やタイミングを練習する。</li> </ul>
情緒	J児 (女) 2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話す人や活動に意識を向けることができる。</li> <li>・挨拶ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動に興味をもてるよう、やり方を教えたり、見通しをもたせたりする。</li> <li>・相手に体を向ける。</li> </ul>
	K児 (男) 4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話す人に意識を向けて、一度で聞くことができる。</li> <li>・子ども同士でやり取りができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に、一度で聞いたら楽しい時間が長く取れることを教える。</li> <li>・事前にどんな時にどんなやり取りをするのかを練習し、声掛けや紙板書で意識できるようにする。</li> </ul>
	L児 (男) 4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不適切な言動をとる場面を自覚し、そのような場面での行動を自制できる。</li> <li>・話す人に意識を向けて、一度で聞くことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に、嫌な気持ちになった時にはどのように動くかを確認する。</li> <li>・事前に、一度で聞いたら楽しい時間が長く取れることを教える。</li> </ul>
	M児 (男) 5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人が話をしているときには黙って聞くことができる。</li> <li>・相手に合わせて関わることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師が話しているときにはアイコンタクトで黙って聞くことに気付かせ、子どもとのやり取りでは声を掛ける。</li> <li>・関わり方を教える。</li> </ul>
	N児 (男) 5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手に合わせて関わることができる。</li> <li>・相手に分かるように伝えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に関わり方を練習する。</li> <li>・事前に説明の仕方や、場にあった声の大きさなどを練習し、紙板書や声掛けなどで意識できるようにする。</li> </ul>
	O児 (男) 6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手に合わせて関わることができる。</li> <li>・相手に分かるように伝えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に関わり方を練習する。</li> <li>・事前に説明の仕方や、場にあった声の大きさなどを練習し、紙板書や声掛けなどで意識できるようにする。</li> </ul>

P児 (男) 6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>子ども同士のやり取りで、話を聞くことができる。</li> <li>相手に合わせて関わることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>聞こうとする姿勢が見えたときに、その姿勢を褒め、自覚させる。</li> <li>事前に相手の気持ちを確認する言葉掛けを練習する。</li> </ul>
Q児 (男) 6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>相手に合わせて、説明をすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前に説明の仕方や、場にあった声の大きさなどを練習する。</li> </ul>
R児 (女) 6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>相手に合わせて関わることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前に相手との関わり方を練習する。</li> </ul>

(3) 展 開

展開	学習活動	学習内容	具体的な手立て	資料・評価
導入 5分	1 本時の課題をつかむ		<ul style="list-style-type: none"> <li>前時の振り返りや学習内容を参考にさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>めあての用紙</li> <li>前時までに学習した紙板書</li> </ul> ○課題に沿っているか。 ○実現できるようなめあてを選んでいるか。
		5・6年：低学年が分かるように説明しよう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>めあては、選択式と自由記述ができるようにする。</li> </ul>	
		4年以下：説明を聞いて遊ぼう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>めあては、自分のことだけでなく相手に関わることも記述できるように声掛けをする。</li> <li>それぞれのめあてを確認し、評価に生かす。</li> <li>数人のめあてを発表させ、他の人がどのようなめあてを立てているのかを聞く。</li> </ul>	
展開 30分	3 ゲームをする	<ul style="list-style-type: none"> <li>5・6年が、誘導、説明をし、4年生以下はそれを聞いてゲームをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>それぞれのゲームで、個人のめあてに関わる言動が見られた時にその都度評価をする。黒板に残しておき、振り返りに生かせるようにする。</li> <li>うまくいかないところは、積極的に教師が関わる。振り返りでうまくいかなかったところ、改善点を確認する。</li> </ul>	○高学年：相手に伝えるポイントを意識して行動しているか。 ○低学年：説明を聞いて行動しているか。
終末 10分	4 振り返りをする	<ul style="list-style-type: none"> <li>めあてファイルに、それぞれ振り返りを書く。</li> <li>数人に発表させる。</li> <li>よりよくするため、もう一度別なゲームを企画することを予告する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>めあてに沿った振り返りができるように声掛けをする。</li> <li>自分のことだけでなく、相手に関わることも記述できるように声掛けをする。</li> <li>活動中に黒板にメモをした言葉を参考にさせる。</li> <li>発表がより具体的になるように聞く。</li> <li>子どもの発表をつなげる。</li> </ul>	○めあてを具体的に振り返ることができているか。